

# 北社会ニュース第303号

2012年7月16日  
発行者： 鈴木壮夫



(1) 7月17日(火)開催 第300回 北社会

テーマ：“北社会への思いを語り合う”

講師：青山史朗氏（中40回）和賀井敏夫氏（中42回）両大先輩の強い思いのお話をメインに数分間のスピーチになりますが庄子清右エ門氏（高2回）、同窓会会長大井龍司氏（高10回）東京同窓会会長佐藤隆輔氏（高5回）三氏に率直に思いを語っていただきます。そして最後に数十秒の思いとなりますが現在の世話人5名と新しく世話人に加入いただいた鈴木直樹氏（高23回）の紹介にて再出発を共感いただければと願っています。

今回、北社会の歴史をひもといて一番びっくりしたのは在京同窓会が再建されたのが戦後30年も経った昭和50年（1975年）だったという事実です。何故に30年間も長い年月が必要だったのか機会があればお聞きしたいと思っています。そして、メンバーの綺羅星ごとの優秀な人材を活用せねばと「北社会」を立ち上げた青山先輩の活力には今更ながら驚嘆させられております。同窓と一口に言っても青春の三年間、文武一道を学んだ年月はそれこそバラバラです。それでも、みんな強い連帯感を抱いている。ひとりひとりにとって“人生の宝”なんだと、もっともっと大切にせねばと本日の300回という記念の日に強く強く思いを新たにしております。

青山先輩が同窓会への奉仕も50余年、ご自身の人生を豊かにしてくれた多数の同窓生に感謝しつつ、惜別の思いをこめて「北社会」運営を後輩に託されたのは2003年11月82才を迎えられる直前のことでした。私達世話人5人は「北社会のあり方」を次のように決めました。（1）会員ひとりひとりが当事者意識をさらに強め「発信・発光」する。

（2）克服すべき難関に目を向け、関心を共有する。それから、8年が経過しました。本日300回は一つの大きな区切りです。皆さん心を新たに、あの川内の青春を取り戻しましょう。きっと、きっと、もっと、もっと私達にできることがあるのではないだろうかと思えます。強い連帯感を抱いて、歩き続けましょう！！フレイフレイ二高！！